



四国がんセンター





さんのご家族の方へ

担当医

受け持ち看護師

2017年8月15日 作成
2024年2月15日 改定



ご家族さまへ

ほとんどの方がこのような経験は初めてだと思います
心配や不安なことを感じるのはあたりまえのことです
分からないことや相談したいことがあれば
その都度、看護師や医師に声をかけてください

これから説明する身体の様々な変化は
すべての方に同じようにみられるわけでも
順番通りに起こるわけでもありませんが
自然な過程であることをご理解いただければと思います



これからどうなるのでしょうか？

1週間前頃～の変化

だんだんと眠っている時間が長くなっていきます

夢と現実をいったりきたりするようことがあります

その時できること
話しておきたいことは先送りせず
今伝えておきましょう



1、2日～数時間前の変化

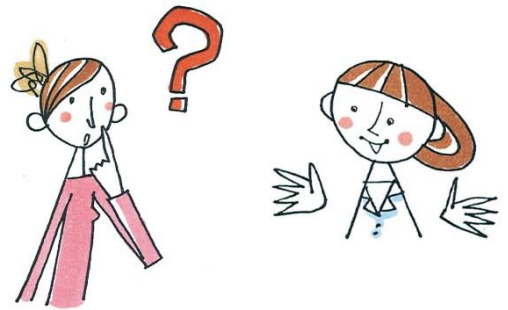
声をかけても目を覚ますことが少なくなります

眠気が増すことがあります

眠気があることで
苦痛がやわらいでいます

その他、よくある変化として…

- 食事量が減ります
- 飲み込みにくくなったり、むせたりします
- 尿の量が減ります
- つじつまの合わないことを言ったり、落ち着かないことがあります



ご親戚やご友人など
会っていただきたい方がいらっしゃる場合は
意識がありお話ができるうちに早めに
お知らせしておくことをおすすめします



私たち医療スタッフはこんなケアや工夫をします

●定期的にお体の状態をみていきます

●患者さんやご家族の希望にそって、必要なお薬を使っていきます

身の置き所がない、落ち着かない場合には
一時的にお休みできる薬を使う場合もあります

お体の状態によっては薬の作用が強くなる場合もあります

●患者さんの負担になる検査や治療は最小限にします

点滴を行うことが逆に体の負担になることがあります
点滴の量も体に合わせて調整していきます

吸引（痰を取り除く処置）は苦痛を伴う処置になります
まずは痰の分泌を抑えるようにし、吸引は必要最低限にします

●日々の生活が、不安なく過ごせるようにお手伝いします

●ご家族の心配事が少なくなるように支援します



知っておいていただきたいこと

脈の数や触れ方、手足の温かさ、呼吸の仕方などから
体の状態を判断します

苦しさをやわらげるのに
必要な鎮痛薬や睡眠薬をつかったとしても
そのために寿命が縮まるということはありません



気になることがありましたら
いつでも声をかけてください



つじつまが合わず、いつもと違う行動をとられるとき
～こんなふうにしてあげてください～

本人が何を話しているか
何を伝えたいのかよく分らない



「間違いを正す」ことは、患者さんを傷つけることがあります
どのようなことを話そうとしているのか、想像してみてください

本当にあった昔のこと、今気がかりになっていることや
しておきたいこと、あるいは口の渇きやトイレに行きたいと
伝えようとしていることもあります

時間や場所が分りにくくなることが多いですが、
ご家族のことが分らなくなることはほとんどありません

つじつまが合わない時は、患者さんの言うことを否定せずに、
安心できるような会話をしてください

そばで何もしないであげられない
何をしたらいいのかわからない



普段の通りに声をかけたり、足をマッサージしたり・・・

家族がそばにいて、話し声が聞こえると患者さんは安心されます

付き添っていて疲れてしまった
クタクタになってしまった



ご家族にも休息が必要です
休息がとれるように調整しますので看護師にご相談ください

興奮状態になると
どうしていいのかわからない



看護師をおよびください

看護師は口の渇きや排泄などの不快なことがないかを
確認して対応します

ご意向と状態に合わせて、お薬が必要か担当医と
相談しながら決めていきます
お薬にはうとうとできるくらいの弱いものから、
完全に眠れるものまで何段階かあります



これからどうするか
自分で決めることが負担に感じる



「患者さんが以前に望まれていたこと」でご存知のことを教えて
ください
ご家族がすべて決めていただく必要はありません

一緒に相談していきましょう
ひとりで考え込まずにそばにいる誰かにお気持ちをお話ください
医師や看護師にいつでもご相談ください



～これから患者さんに起こる変化～

喉の奥でゴロゴロと音がすることがあります

苦しそうに見えますが、眠っている時間がながくなり
実際にはつらさを感じていないことが多いです

吸引処置は苦痛を伴いますので、必要最小限にとどめます

体を横にしたり、上半身を少し起こすことで、
少しおさまることもあります

呼吸のリズムが不規則となり、いびきのような呼吸になったり
肩や顎を動かすような呼吸がみられたりしてきます

血圧が下がり循環が悪くなるため、脈が弱くなり
手足の先が冷たく、青ざめてきます

冷や汗でじっとりすることもあります

タオルで汗を拭き取ったり、掛け物を調整したり
さすったりします





高い熱がみられることがあります
体が頑張っていることで起こります

氷枕を使ったり、掛け物を調整します

尿道や肛門を閉じる筋力の低下により
尿や便を漏らしてしまうことがあります

ご本人の負担を軽減するため
体調にあわせて着替えや排泄の介助を行います

聞く力は、最期まで残っているとされています

患者さんの言葉や思い出など何か伝えたいことがあれば
話しかけてみてください

ご家族の声を聞くだけでも患者さんの安心につながります



お別れが来たとき



ご家族、ご親戚、ご友人など
大切な方々で静かに見守ります

お体に触れ、十分にお話をしてください

不安だったり、心配なことなどがありましたら、
いつでも医師や看護師に声をかけてください



- 大切な方々で十分にお別れをなさってください
- お体を拭いたりお着替えをする際、ご家族も一緒に行うことができます
看護師までご希望をお伝えください
- お着替え（愛用の服や寝間着など）や愛用の化粧品などがあればご準備ください
お化粧品についてはご希望を確認します
その際、当院のメイクセットを使用することもできます
- 死亡診断書ができましたら、看護師が事務手続きにご案内いたします
- 葬儀社への連絡はご家族にお願いしております
- お帰りの準備が整う目安は、看護師がお伝えいたします
お帰りになる時間を看護師へお知らせください
不明な点は看護師へご相談ください
- 病院からお帰りになるとき、死亡診断書が必要となります
一緒にお車に乗られる方がお持ちになるか、葬儀社の方にお渡しください





ご心配な点があれば、いつでもご相談ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】 8：30～17：15
四国がんセンター がん相談支援センター
（直通番号） 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
（代表番号） 089-999-1111

このパンフレットは特定非営利活動法人日本緩和医療学会の
「緩和ケア普及活動のための地域プロジェクト（OPTIM）」を参考に作成しました

